



**TOBISHIMA
CORPORATION**

CORPORATE BROCHURE



<https://www.tobishima.co.jp/>

創業精神

利他利己

己の利を計らんと欲せば己の利を後とし、これを犠牲としてまず相手の利を計れ。
相手に提供した自分の犠牲は己の努力と創意工夫をもって補え。
これが自他共に繁栄し、ひいて究極は必ず己の利となる結果をもたらす。

わたしたちは、創業者飛嶋文吉の掲げた、『利他利己』という創業精神のもと、
真摯な対応と誠実さをもって、「お客様満足」を追求します。



飛島 × 南極 (写真提供: 国立極地研究所)

国家プロジェクトである南極地域観測隊の一員として 1994 年から 30 年以上にわたり毎年継続的に国立極地研究所に技術者を派遣、観測隊の活動拠点である昭和基地の設備メンテナンスや、発電関係施設や污水处理施設など各建物の建設・解体・保守、インフラ整備や道路建設、ヘリポート整備など現地における建築・土木作業全般に従事。当社は数々の難工事の施工を通じて長年培ってきた経験や技術力を活かし、困難な状況下でも確実に任務を達成し、観測活動に貢献しています。

飛島建設株式会社
代表取締役社長

築地 功

飛島建設は1883年(明治16年)の創業以来、「利他利己」の精神を貫き通してまいりました。この精神がもたらす工事への誠実さは、発注者や地域住民からの厚い信頼を生み、数々の難工事をお任せいただく礎となっています。日々研鑽を重ねることで、飛島建設の誇りである技術力は絶え間なく向上し、現在に至るまで成長を遂げています。

現在の建設業界は、いくつかの大きな課題に直面しています。労働力不足や高齢化、老朽化したインフラ、そして能登における震災や豪雨災害が浮き彫りにした自然災害へのぜい弱性、さらに地球温暖化による異常気象の加速などです。加えて、次世代への継承という観点から、SDGs や ESG への取り組み強化が必要不可欠となっています。

飛島建設は、これらの課題に対して理想と情熱、知恵と技術、努力と創意工夫を提供し、人々の生活基盤を守り、経済発展を支えるために不可欠な Construction をつくり続けていきます。

2024 年 10 月に飛島建設は飛島ホールディングスの一員となりました。今後はグループの中核事業として、これまで培ってきたイノベーションマインドと豊富な技術開発のノウハウを最大限に活かし、飛島グループ全体の企業価値向上を目指してまいります。飛島建設は今後も全社員一丸となって、企業としての成長と社会貢献を両立させるべく努力を重ねてまいります。皆様と共に歩む未来に向けて、一層の御支援と御指導を賜りますようお願い申し上げます。

明治

1883年(明治16年)	飛嶋文次郎が飛島組を創設。 福井城城郭取り壊し工事を初めて請け負う。
1889年(明治22年)	土木請負業者として初の官庁工事の入札に参加。
1905年(明治38年)	水力発電工事の第1号として京都電燈の中尾発電所工事(福井県)を請け負う。

大正

1913年(大正2年)	福井〜大野間の電鉄建設工事を請け負い、鉄道工事にも進出。
1915年(大正4年)	鬼怒川筋河川改修工事を受注し、関東へ進出。
1916年(大正5年)	資本金10万円で株式会社飛島組(代表取締役・飛嶋文吉)を設立、 本社を福井市豊島中町に置く。
1920年(大正9年)	資本金100万円で株式会社飛島組を株式合資会社に改組。
1922年(大正11年)	東京営業所を東京市麹町区飯田町2丁目に開設し、中央進出の拠点とする。

昭和

1937年(昭和12年)	請負額3,000万円を突破、業界記録を樹立。
1940年(昭和15年)	本社を福井市より東京市麹町区九段へ移転。
1947年(昭和22年)	資本金300万円で飛島土木株式会社(代表取締役・飛嶋 齊)を設立。
1960年(昭和35年)	東京証券取引所に株式を店頭公開、翌36年に一部上場。
1965年(昭和40年)	土木偏重のイメージから脱皮するため、社名を飛島建設株式会社と改称。
1967年(昭和42年)	本社ビル(九段)を新築。
1982年(昭和57年)	「青函トンネル算用師工区」竣工。
1983年(昭和58年)	創業100周年、資本金78億7,109万円。新本社ビル(三番町)へ移転。
1986年(昭和61年)	「第二国立劇場」国際コンペで優秀賞を受賞。

平成

1989年(平成元年)	わが国初のインキュベート機能を備えた、 「かながわサイエンスパーク(KSP)」が完成、オープン。
1993年(平成5年)	創業110周年、資本金300億200万円。
1997年(平成9年)	東京湾横断道の川崎人工島より川崎方の海底トンネル部が竣工。
2002年(平成14年)	全支店で環境マネジメントシステムISO14001認証取得完了。
2004年(平成16年)	「旭川市処分場」平成15年度土木学会環境賞を受賞。 「静岡県富士水泳場」第45回BCS賞(建築業協会賞)を受賞。
2006年(平成18年)	大型ロックフィルダム「摺上川ダム」竣工。
2007年(平成19年)	「飛驒トンネル避難坑」竣工。
2009年(平成21年)	「藤沢市立滝の沢小学校」(色鉛筆トグル)がキッズデザイン賞を受賞。
2010年(平成22年)	「留萌ダム建設事業」がダム工学会技術賞を受賞。
2017年(平成29年)	本社を東京都港区へ移転。

令和

2024年(令和6年)	単独株式移転により持株会社である「飛島ホールディングス株式会社」を設立し、 東京証券取引所プライム市場に上場。
-------------	--

福井城城郭取り壊し
(福井県 / 明治16年)越前電鉄新福井駅
(福井県 / 大正2年)青函トンネル算用師工区
(青森県 / 昭和57年)かながわサイエンスパーク(KSP)
(神奈川県 / 平成元年)摺上川ダム
(福島県 / 平成18年)飛驒トンネル避難坑
(岐阜県 / 平成19年)北陸新幹線「越前たけふ駅」
(福井県 / 令和5年)

未来の産業振興・発展を支える企業を目指して

飛島ホールディングス設立

飛島建設株式会社は、「飛島ホールディングス株式会社」の一員として、新たな一步を踏み出すこととなりました。創業以来140年余、私たちは建設業を通じて社会の発展に貢献し続けてきた、その歴史と経験を基に、今後はさらに広がりを持つ企業グループとして、より多くの価値を創出してまいります。

飛島グループが描く「ブランドストーリー」は、未来のConstructionをつくる「New Business Contractor」への変革です。その意味するところは、共創の精神で繋がるビジネスプラットフォームの形成で、建設業の枠を超えて、自らが新たなビジネスを創造するとともに、多様な人々のビジネスの創造を支援し、その実現を約束するビジネスパートナーとしてあり続けることです。

社会課題の解決をキーワードに、社会と企業のサステナビリティを両立させる視点で、建設事業のリスクリングを推進し、複合企業体としてドメイン・ポートフォリオ・戦略・ビジネスモデル・オペレーションなどの変革を進め、さらなる成長を目指してまいります。

建設事業 | 成長戦略

長期視点 ▶ 目指す姿

狭義のインフラリニューアル事業の枠を超えて、老朽化が進むインフラの寿命を延ばし、インフラの安全性と信頼性を維持し将来的な大規模災害のリスクを減少させる一連の建設複合事業を「インフラアンチエイジング事業」として捉え、経済的にも持続可能な成長を支える基盤となる事業を目指します。また、長期視点の実現に向けた成長戦略として「短期」視点と短期・長期をつなぐ「バトンゾーン」の側面からアプローチしていきます。

短期視点

建設事業の深耕(DXによる省力化の推進)

デジタル技術を活用した業務見直しによる施工プロセスの省力化を推進

フィールドサクセスセンター(FSC※)

ノンコア業務の集約



建設現場



建設現場



建設現場

コア業務(安全・品質・工程管理)

— ITツール —

遠隔管理

情報共有

業務変換ツール

サービス開発

イノベーション事業

※FSCとは：建設現場からフロントローティング業務を集約し、生産プロセスの一元管理を行う当社独自のセンター機能

バトンゾーン 循環型社会への移行を見据えて、リニューアル市場への対応強化

技術の高度化による競合との差別化を推進

リニューアル工事におけるコスト競争力の向上



CIVIL ENGINEERING PROJECTS

創業以来培った施工力を核に、国家プロジェクトへの参画から、上下水処理場や治水施設等の地域インフラ建設を担う等、様々な国土強靱化関連事業に取り組み続けています。イノベーションマインドを原動力に、これからもインフラの長寿命化や脱炭素関連事業等の市場開拓にも積極的に取り組んでまいります。



01 北陸新幹線、 南越駅高架橋他 (福井県)	02 二級河川田代川筋川向 地区河川災害復旧 (23災661号) 水門土木工事(岩手県)	03 国道106号 小山田地区道路工事 (岩手県)
04 平成26年度糸満高架橋 上部工(上りP5~P8) 工事(沖縄県)	05 杉並区善福寺二丁目、 上荻四丁目付近善福寺 川流域合流改善貯留施設 設置工事(東京都)	06 多摩北部給水所(仮称) 築造工事(東京都)



07 導水管更新に伴う トンネル築造工事 (千葉県)	08 金出地ダム(兵庫県)	09 志津川土地区画 整理事業地区外 整備工事(宮城県)
10 旭川十勝道路 富良野市 新富良野大橋B橋 上部工事(北海道)	11 国道45号 陸前高田道路工事 (岩手県)	12 ルワマガナ郡灌漑 施設改修計画 (ルワンダ共和国)

お客様との対話により潜在的ニーズを把握し、事業計画・設計・施工・アフターサービスまで、ワンストップで最適なお提案を行う建設コンシェルジュ活動に取り組んでいます。当社が培ってきたイノベーションマインドと技術開発のノウハウを活かし、高品質な建物の建設はもとより、脱炭素対策やリノベーションによる新たな価値創造など、多様化するお客様のニーズにお応えします。



01	HAMACHO HOTEL & APARTMENTS (東京都)		02	サンミットひたち野 東ステーションフロント (茨城県)		03	学校法人駒場学園 新世紀会館 (東京都)	
04	北陸新幹線 「越前たけふ駅」 (福井県)		05	ブルネイ・ダルサラーム 中央銀行 (BDCB) ビル (ブルネイ)		06	横浜ベルエポック 美容専門学校 (神奈川県)	



07	株式会社ファイネス 本社物流センター 建設計画 (石川県)		08	神田税務署 (東京都)		09	土佐市新庁舎 (高知県)	
10	東京消防庁本町 待機宿舎 (東京都)		11	南日本博多ビル (福岡県)		12	福岡大学プール (福岡県)	

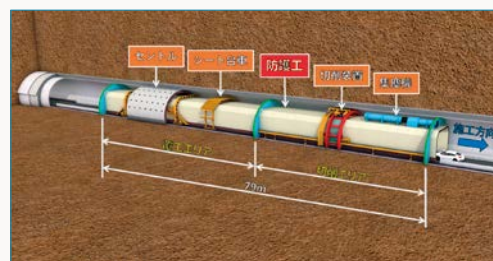


技術開発 TECHNOLOGY DEVELOPMENT

当社では、成長戦略に基づき、デジタル技術を活用した施工プロセスの省力化を推進しています。また、循環型社会への移行を見据えたりニューラル市場への対応を強化し、独自の環境技術を活用してサステナブル社会に対応したトランスフォーメーションを実現することで、新たな成長フィールドを開拓してまいります。

覆工再生技術

覆工再生工は、矢板工法で構築された山岳トンネルの覆工をリニューアルする工法です。既設覆工を事前にロックボルトで補強した後、防護工を設置し車を通しながら、狭い空間で、打設後のコンクリートが車の通行を妨げないようにコンクリートを削り、防水シートを貼り、新たな覆工を打設します。反対線に渡る工事が不要となり、車線規制区間も大幅に短縮し、工事渋滞の緩和が可能です。



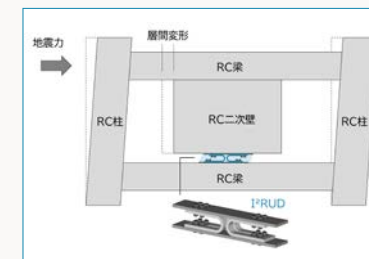
Hydro-Jet RD工法 (Hydro-Jet Demolition Technique for Replacing the Decks)

従来、長期の通行止め期間を必要としていた合成桁橋の床版取替工事において、飛鳥建設では接合部の除去作業を、通行規制を行わずに通行止め開始日までの準備期間に行える工法を開発しました。1回の床版撤去範囲を鋼桁位置に関わらず大きく設定することで、床版撤去期間とこれに伴う交通規制期間を短縮できます。



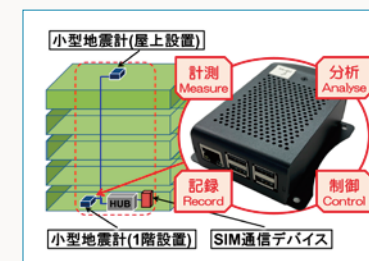
I²RUD[®] 制震工法

「I²RUD[®] (アイラッド)」は、①二次壁内への配置が可能であり、平面プランの制約を受けない、②小型・軽量であるため人の手で運搬、設置工事が可能、③構成部材がシンプルであるため低コスト、④繰り返し性能に優れるため被災後の取り替えは不要など、これまでの制震ダンパーにはない特長を多く有しています。



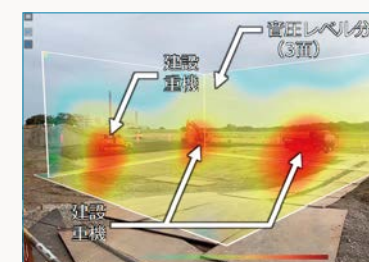
小型地震計測システムNAMISIIL™

地震被災時の被害状況を評価するための情報源として建物の構造ヘルスマニタリングが注目を集めています。当社では、システムを普及させるため費用面や設置手間の問題を解決した小型地震計測システム「NAMISIIL (ナミシル)」を構築しました。センサーとしての地震計と制御PCを一体化することでハード機器を簡略化し、建物屋上および1階に地震計を付ける最小観測ユニットとすることで、省スペースでシステムを構築できます。



音場可視化システム「OTOMIRU[®] Ver.2」

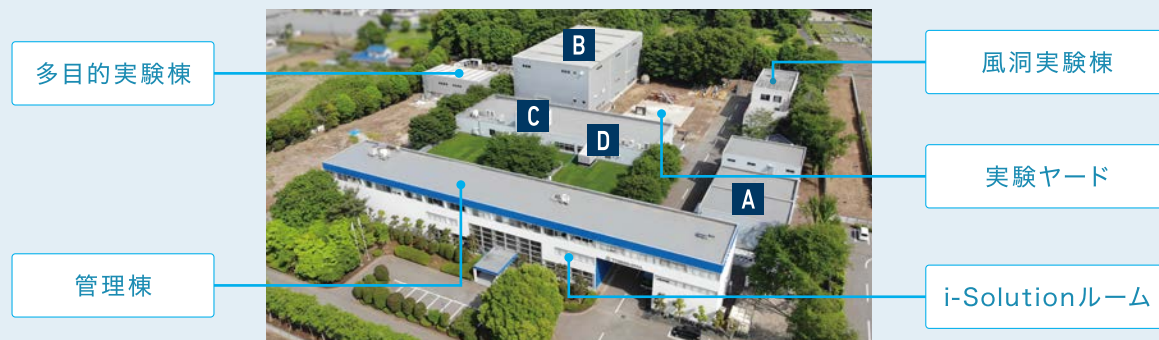
実空間でのリアルタイムな音の可視化は、これまでの技術では困難でした。「OTOMIRU[®] (オトミル)」は、ビームフォーミング法による音圧の計算結果をMR・ARデバイスを用いて実空間に重畳することで、リアルタイムな音の可視化を可能にしています。この技術を用いることで、騒音の伝搬状態や対策効果を目視により速やかに確認できます。



技術研究所 RESEARCH INSTITUTE OF TECHNOLOGY

イノベーションマインドと高度な技術力により、安全・安心な社会づくりに貢献します。

飛鳥建設が培ってきた建設事業の領域や、それを取り巻く防災・地球環境等、幅広い領域を対象として、基礎研究はもとより、調査・診断・予測評価・対策に関わる信頼性の高い技術の研究・開発を推進し、安全・安心な社会づくりを支えます。



A 音響実験棟

騒音・振動に係る居住環境や空間の品質向上に寄与する技術を提供します。



CLT (直交集成板) による箱型模型実験

B 構造実験棟

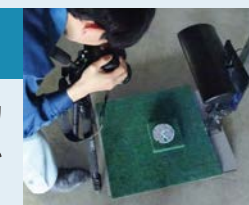
反力壁や反力床、大型ジャッキなどを用いて様々な実験を行い、構造物の安全・安心を提供します。



木質梁の載荷実験

C 材料実験棟

材料の特性を把握する基本的な実績の積み重ねにより、確かな品質を確保します。



コンクリートの微細ひび割れ評価

D 土質実験棟

土質・岩石・木材などの特性を把握する実験により、地盤・基礎に関する研究を行っています。



難透水性材料のための圧密透水試験装置